

桜舞う季節が訪れました。第七十五回、二百九十三名の卒業生のみなさん、御卒業おめでとうございます。中学校の全教育課程を修了し、九ヶ年の義務教育を無事終えたことに心からお祝いを申し上げます。

さて、みなさん、私は、みなさんのことを誇りに思っています。

「3年生の背中を見て、3年生を見習ってください。」

私は、1、2年生に何度こう呼びかけたことでしょうか。

皆さんは、困難が立ちちはだかるたびに、この場所で、その時その時の最善を尽くしました。それぞれがそれぞれの個性や持ち味を存分に発揮し、しなやかに、そして歩みを止めることなく、互いを磨き、高め合い、今日に至っています。

例えば、6月21日の体育祭、たった一日で、みなさんは、3年生としての堂々たる頼もしさを、そして、誰よりも生き生きと輝く姿を後輩に示し、チーム常盤の絆を私たちに刻みこみました。これは、ほんの一例にすぎません。みなさんは、教え切れないほどの感動を与え、伝統を創り、学校を元気にしてくれました。

私は、知っています。

あなたが、部活動を引退するとき、涙を流し、別れを惜しんだ後輩がいたことを

あなたが、学校行事で躍動するたびに、憧れと尊敬の念を抱いた後輩がいたことを

私は、知っています。

あなたが、友人関係や進路選択など、人知れず、心を痛めていたことを

あなたが、思いやりを忘れず、誠実に努力し、ひとつひとつ壁を乗り越えてきたことを

そして、あなたが、かけがえのない仲間や、優しく見守ってくださいるご家族の方を、いつも大切にしていたことを
そんなあなたを想うたびに、この言葉が浮かぶのです。

『春風(しゅんぷう)をもって人に接し、秋霜(しゅうそう)をもって自ら肅(つつ)む。』

(しゅんぷう)とは春の風を、(しゅうそう)とは秋の霜のこと、転じて、この言葉は、人に対しては春風のように優しく爽やかに接し、自分自身に対しては秋の霜のように厳しく行動を正す、という意味です。まさに、あなたの姿、そのものです。だから、わたしは、あなたを誇りに思うのです。今日まで、本当によく頑張りましたね。今日まで、本当にありがとう。

さあ、いよいよ大海原に船を漕ぎ出す時がきました。あなたが、この場所で学ぶものは、もう何もありません。明日からのあなたに、これからのステージで挑戦してほしいことがあります。それは、**答えの無い問いと向き合い生きていく**、ということですよ。「答えの無い問い」例えば、愛とは何か、人生とは何か、正義とは何か、本当の幸せとは、真の自由とは何ぞや。という意味あいです。みなさんに尋ねたら、二百九十三通りの答えが返ってくるんですよ。それでよいのです。それがよいのです。みんな違って、みんないいのです。人生においては、**答えの無い問いこそ、価値ある尊い答えがある**のかもしれない。人や社会に惑わされない、ブレない自分の軸を礎に、自分が納得できる答えを探し、自分らしく歩んでください。

「らしく・らしさ」という言葉があります。時に「メソメソするな、男らしくない。」とか「女の子らしくしなさい。」というセリフを耳にすることがあります。男らしく女らしくという「らしさ」は、ひよとしたら、社会や慣習から作られた一面もある概念かもしれません。私はよく泣きます。涙もろいのです。その側面に照らすと、私は、凡そ男らしくないでしょう。**大切なことは、自分らしく在る、ということではないでしょうか。**

そして、自分らしく在るためには、自分以外の周りの人が、その人らしく在ることも尊重して、初めて成り立つのだと、強く思います。人は、自分独りだけで生きていくわけではありません。人間社会の中で、生かされているのです。私たちは、時折、そのことを忘れてしまっではないでしょうか。人は、出会うべき時に、出会うべき場所で、出会うべき人と出会うのだと思います。佳き出会いを紡ぎ、人を愛し、**真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、自分らしく正々堂々と生きてゆかれることを望みます。時には、純金の怒りを以て、自分の大切なものを守るために闘う勇氣も失わないでくださいね。**

保護者の皆様、お子さまの御卒業、誠におめでとうございます。なんと立派な姿ではないでしょうか。この佳き日を迎えるまで、御心配や御苦労がたくさんあったことと拝察いたします。その日々の積み重ねに、心より敬意を表します。その甲斐があり、今の姿があるのだと存じます。これからも、家族の絆を大切にしてください。温かく支えていただければと切に願っております。三年間、本校教育活動に格別の御理解、御協力を賜り、教職員一同、改めて御礼申し上げます。有り難うございました。

結びに、浦和区役所副区長 原田 冬彦 様、生涯学習部参事兼うらわ美術館副館長 酒井 浩志 様をはじめ、多くのご来賓の方々に、ご臨席賜りましたことに、深く感謝を申し上げ、式辞といたします。

玉櫛の俊英、青学年の皆さん、いつてらっしゃい！

令和六年三月十五日

さいたま市立常盤中学校長 玉崎 芳行